



会員さんってどんな人？

クリーンアップ関西事務局 共同代表  
兵庫県加古川市 古川 公彦 さん



2019 秋・国際ビーチクリーンアップ in SUMA

**Q** 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

**A** 生まれは和歌山県で、仕事の関係で

現在は兵庫県加古川市在住です。今年で 55 歳！

**Q** ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

**A** もともと、たばこの吸い殻や空き缶など、道ばたにごみが落ちているというのが気になっていましたが、海岸でのごみ拾い活動に参加してから、散乱ごみの分野に特に興味を持つようになりました。

現在、本業のサラリーマンの傍ら、国際海岸クリーンアップ (ICC: International Coastal Cleanup) の活動を行っており、兵庫県神戸市の須磨海岸を拠点に、漂着ごみ調査を年 2 回、定期的に行っています。



調査・回収中の海ごみ (2019 年春)

この活動は全国規模 (秋は世界規模) のごみ調査キャンペーンとなっており、ナショナルコーディネータとして日本国内のとりまとめを一般社団法人 JEAN が行っています。

ここ数年、マイクロプラスチックが非常に注目されています。今年で 30 周年になるこの漂着ごみ調査では、海水浴場では大量のたばこのフィルターが見つまっているのと併せて、かなり早い段階から「プラスチックは微細化し拡散する」と懸念し、数量ベースですがプラスチックが占める割合を観測していました。

プラスチックは私たちの生活の必需品となっていますが、いったん自然環境に出されてしまうと微細化を繰り返し、回収できずに長期間海を漂流し、海洋資源に影響を与える結果になります。

私たちは、プラスチックは素材の特性が理解されずに「間違った使い方」をされている側面があると考えています。解決策として単にマナー意識の向上だけではなく、素材の特性を正しく理解する啓蒙教育活動と、使い捨てプラスチックを減らし自然環境に出さないための社会作りが必要と提言してきました。

現実問題として、回収できる流出プラスチックは一部でしかなく、例えば同じ海岸線でもふだん人が入れない海岸や離島では大量のプラスチックごみが未回収であることから、プラスチックごみの発生を抑制する社会作りを急ぐ必要があります。

**Q** ごみかんに入会して下さったきっかけは？

**A** 2006 年頃、当時のごみかんの関係者の方からお誘いをいただき、同じごみ問題で活動する仲間として個人として入会させていただきました。すでに私たちもホームページを立ち上げて活動状況を公開しており、サイトをご覧になってご連絡を頂いたかと思えます。

**Q** ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことは？

**A** ごみの発生そのものを減らし、かつ環境に流出しない社会作りを目指すこと、そのための継続的なセミナーの開催、行政への提言や働きかけを期待します。

以前は海ごみ・散乱ごみは美観の問題と理解され、単に「拾えばいい」「ポイ捨てを禁止すればいい」と思われていた時期もありましたが、そんな簡単なものではないことは調査活動から明確となっています。散乱ごみ問題もごみ処理問題も、実は根は同じなのではないでしょうか。

クリーンアップ関西事務局

<http://www.page.sannet.ne.jp/kfuru/>

一般社団法人 JEAN

<http://www.jean.jp/>